

第11回 ねごろ医用実学研究会 アンケート集計結果

(アンケート回答があった視聴者のみ)

1. アンケート回収数

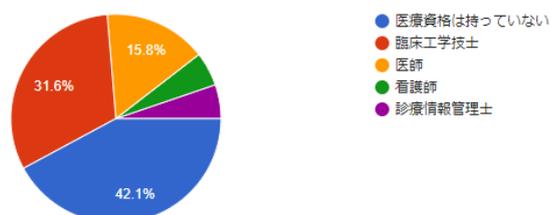
181件の回答



区分	人数(人)	割合(%)
総計	181	(100)
一般	19	10.5
学生 (医用工学科以外)	9	5.0
医用工学科在校生	153	84.5

2. 一般参加者の医療資格保有状況

19件の回答



区分	人数(人)	割合(%)
未保持	8	42.0
臨床工学技士	6	31.6
医師	3	15.8
看護師	1	5.3
診療情報管理士	1	5.3

3. 学生 (医用工学科在校生以外) の学年

学年	人数(人)	割合(%)
高校1年生	1	11.1
高校3年生	1	11.1
大学4年生	1	11.1
大学院2年生	2	22.2
1年生 (高校 or 大学が不明)	3	33.3
3年生 (高校 or 大学が不明)	1	11.1

4. 研究会参加のきっかけ：一般、学生 (医用工学科在校生以外)

内容	一般 人(%)	学生(医用工学科以外) 人(%)	全体 人(%)
チラシ・パンフレット	3 (15.8)	1 (11.1)	4 (14.3)
生物理工学部ホームページ	2 (10.5)	—	2 (7.1)
所属学会の案内	6 (31.6)	—	6 (21.4)
上司・同僚・先生の紹介	6 (31.6)	8 (88.9)	14 (50)
その他	2 (10.6)	—	2 (7.2)

5. セコム 山吉様のご講演 難易度

内容	一般 人(%)	学生(医用工学科以 外) 人(%)	医用工学科在校生 人(%)	全体 人(%)
よくわかった	12 (63.2)	3 (33.3)	72 (47.1)	87 (48.1)
わかった	6 (31.6)	4 (44.4)	69 (45.1)	79 (43.6)
やや難しかった	1 (5.3)	1 (11.1)	11 (7.2)	13 (7.2)
難しかった	—	1 (11.1)	1 (0.7)	2 (1.1)

6. セコム医療システム 雨面様のご講演 難易度

内容	一般 人(%)	学生(医用工学科以 外) 人(%)	医用工学科在校生 人(%)	全体 人(%)
よくわかった	13 (68.4)	3 (33.3)	71 (46.4)	87 (48.1)
わかった	5 (26.3)	3 (33.3)	64 (41.8)	72 (39.8)
やや難しかった	1 (5.3)	2 (22.2)	16 (10.5)	19 (10.5)
難しかった	—	1 (11.1)	2 (1.3)	3 (1.7)

7. 富山大学 中島先生のご講演 難易度

内容	一般 人(%)	学生(医用工学科以 外) 人(%)	医用工学科在校生 人(%)	全体 人(%)
よくわかった	12 (63.2)	4 (44.4)	51 (33.3)	67 (37.0)
わかった	5 (26.3)	1 (11.1)	64 (41.8)	70 (38.7)
やや難しかった	1 (5.3)	3 (33.3)	31 (20.3)	35 (19.3)
難しかった	1 (5.3)	1 (11.1)	7 (4.6)	9 (5.0)

8. 京都大学 黒田先生のご講演 難易度

内容	一般 人(%)	学生(医用工学科以 外) 人(%)	医用工学科在校生 人(%)	全体 人(%)
よくわかった	14 (73.7)	2 (22.2)	50 (32.7)	66 (36.5)
わかった	4 (21.1)	3 (33.3)	40 (26.1)	47 (26.0)
やや難しかった	1 (5.3)	3 (33.3)	47(30.7)	51 (28.2)
難しかった	—	1 (11.1)	16 (10.5)	17 (9.4)

9. 一般のみ：臨床工学技士の業務について、この講演会で初めて知ったこと(自由記述)

- 職域の拡大（可能性）について検討されていること
- 京都大学病院の ICT 研究
- 機械が出来る限界を把握した上で他の医療関係者に説明する力が必要なことがこれからは必要だということが分かりました。

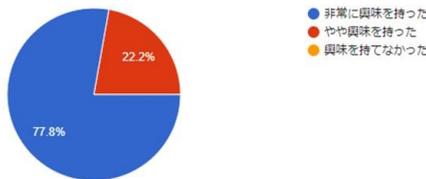
- 遠隔治療・AI技術の現状を知ることが出来、大変勉強になりました。
- 遠隔医療が思った以上に普及または進化していることを初めて知りました。夢にまで見たAI医療の実現化がすぐそこまで来ていることに深い興味と関心を持ちました。

10. 一般のみ：臨床工学を享受する大学教育に対するご要望（自由記述）

- 情報工学に関する教育の充実
- 兵士を養成する専門学校とは違う、問題発見能力と解決能力を持ち合わせた技士または業界人の育成
- 医療に興味を持っているが知識が全くない入門者に対して、医療に出てくる専門知識をもう少し分かりやすく簡潔に理解できる説明が欲しいと思います。
- 黒田先生のご講演にもありました医療機器の臨床使用の評価や安全使用を実践できるような基盤づくり（モニタリング技術や評価法）を担えるような情報科学、ICT教育の充実が必要になってくると考えます。

11. 学生（医用工学科以外）：臨床工学技士への興味

9件の回答



区分	人数(人)	割合(%)
非常に興味を持った	7	77.8
やや興味を持った	2	22.2
興味を持てなかった	—	—

10. その他、ご感想や今後聞きたいテーマ等（自由記述・医用工学科在校生を除く）

- 一般
 - ・ すばらしいご講演の数々、深く感謝いたします
 - ・ 来年以降もハイブリッドでの開催があると聴講しやすいです
 - ・ 高齢者が増えて働き手が減る中、限られた人的資源を有効かつ長く利用できるような取り組み。忙しい自慢をする技士ではなく、仕事を楽にするためのICT利用や教育などの内容。
 - ・ 遠隔医療が診療を担当する医者の方々とタクシー会社などの地域のサービスとの連携を可能にすることや医療におけるaiの実用化の法的な難しさなどが分かりました。
 - ・ 今後の遠隔治療・AI技術の発展に臨床工学技士としてどう関わっていけるのか考える良い機会となりました。今後も引き続き臨床工学領域と実臨床の最新テーマを宜しく願います。本日はありがとうございました。
 - ・ 本日のテーマががとても勉強になりました。次回も同様テーマであれば聴講したいと思います。
 - ・ 今後、遠隔医療が臨床応用されるには、まだまだハードルがある。遠隔医療での管理料の点数加算、デバイスのPMDA承認（コロナワクチンでも日本は遅れている）、日本の官僚が認識を変えられるような研究会として発展してください。応援しています。
 - ・ 遠隔手術ロボットや救急医療についての話が聞きたいです。
 - ・ この度は開催頂きありがとうございました。非常に勉強になりました。データサイエンス関連のテ

ーマも引き続きご検討いただければ幸いです。

➤ 学生（医用工学科以外）

- ・ これからの医療の新しい形を知れて良かったです。
- ・ 臨床現場でよく耳にする診療報酬についてよく理解できました。また医療と AI、まだまだやることは多いと感じ、数年後再進学して医用画像と AI の研究がしたいという意欲がさらに高まりました。ありがとうございました。

以上